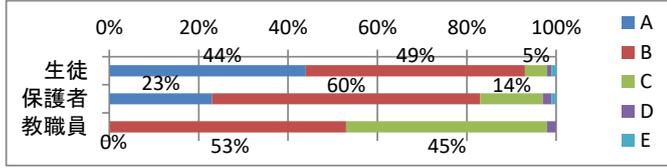


# 令和5年度 学校評価アンケート結果報告

A とてもそう思う B そう思う C あまり思わない D 全く思わない E わからない

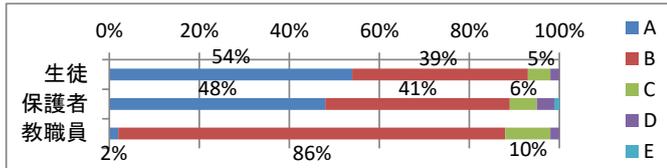
## 1 アンケート結果のまとめと考察

1 生徒	私は、あいさつや返事など、礼儀正しい生活を心がけている。
保護者	お子さんは、あいさつや返事など、礼儀正しい生活を心がけている。
教職員	生徒は、あいさつや返事など、礼儀正しい生活をしている。



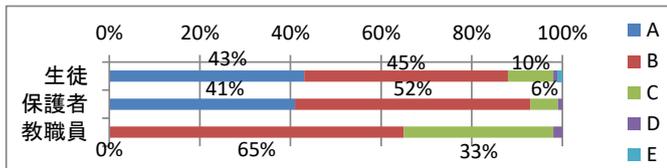
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → ±0、保護者 → -4、教職員 → -10  
 生徒や保護者の約90%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。一方、教職員は約53%であり、生徒や保護者との差異が見られる。教職員は生徒のさらなる成長を期待していることがうかがえる。教職員が課題と捉えることを具現化して、生徒に伝えることが大切である。その後の取組や成長をふまえ、生徒への称賛の声かけや、学校だより等による保護者への配信に努めたい。

2 生徒	私は、登校や授業開始など、時間を守っている。
保護者	お子さんは、登校や授業開始など、時間を守っている。
教職員	生徒は、登校や授業開始など、時間を守っている。



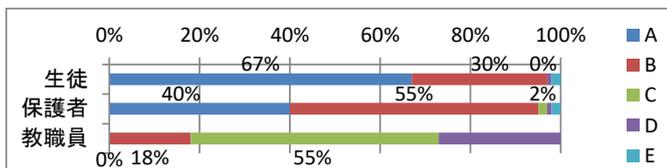
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -1、保護者 → -3、教職員 → ±0  
 生徒や保護者の約90%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。まずは、保護者が学校の方針に理解を示し、協力を得ていることに感謝の気持ちを大切にしたい。一方、「とてもそう思う」と回答している教職員は非常に少ない。大半の生徒は登校時間を守っているものの、改善の余地はあると思われる。生徒の心に寄り添いながら、小刻みな目標を立て計画的に改善を促したい。

3 生徒	私は、服装や髪型など、きちんとした身だしなみを心がけている。
保護者	お子さんは、服装や髪型など、きちんとした身だしなみを心がけている。
教職員	生徒は、服装や髪型など、きちんとした身だしなみを守っている。



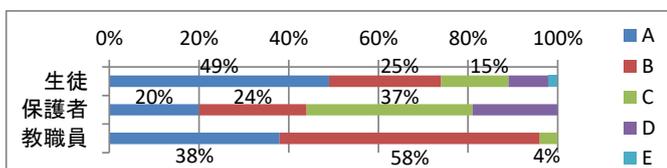
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -4、保護者 → -2、教職員 → -23  
 生徒や保護者の約90%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。まずは、保護者が学校の方針に理解を示し、協力を得ていることに感謝の気持ちを大切にしたい。一方、「とてもそう思う」と回答している教職員は0名である。生徒や保護者における認識の多様化や、教職員の共通認識の難しさが一因である。生徒指導提要の改訂もふまえ、時代に即した指導の共通理解が大切である。

4 生徒	私は、自転車の乗り方など、交通ルールを守っている。
保護者	お子さんは、自転車の乗り方など、交通ルールを守っている。
教職員	生徒は、自転車の乗り方など、交通ルールを守っている。



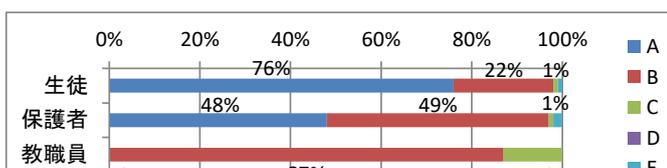
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → +1、保護者 → -2、教職員 → -50  
 「とてもそう思う」の回答は生徒が67%、保護者が40%、教職員が0%と認識に差異が見られる。また、教職員の「あまり思わない」が55%であることから、交通安全を願う思いがうかがえる。全校集会での交通担当からの指導や、学級での担任からの指導は行っているものの、地域から苦言を寄せられることもある。生徒に、自動車等を運転する側の思いを認識させることも大切である。

5 生徒	私は、体育の授業や昼休みの外遊びなど、進んで体を動かしている。
保護者	お子さんは、休日などに進んで体を動かしている。
教職員	生徒は、体育の授業や昼休みの外遊びなど、進んで体を動かしている。

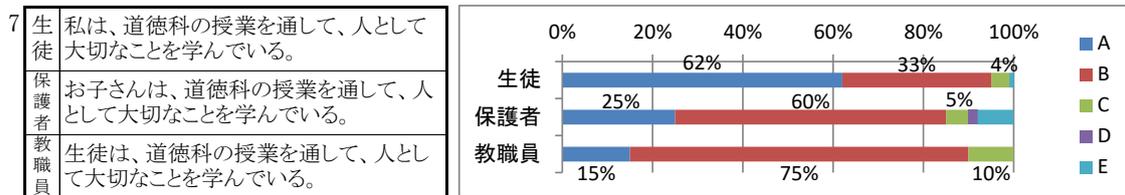


■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -6、保護者 → -2、教職員 → +6  
 「基本的な生活習慣の形成」の一つとして「外遊びの奨励(昼休み)」を組織的、計画的に指導してきた成果がうかがえる。校舎内では、集中して勉強したり、心身をゆっくり休めたりと、生徒の過ごし方は様々である。一方、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した保護者は44%であり、高い数値とは言えない。休日の過ごし方について、改善の余地があると思われる。

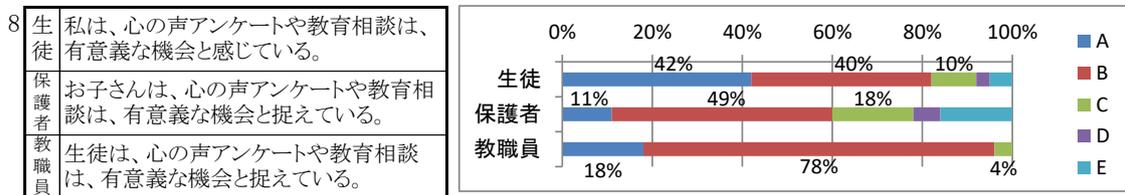
6 生徒	私は、「いじめをしない、許さない」ことを心がけている。
保護者	お子さんは、「いじめをしない、許さない」ことを心がけている。
教職員	生徒は、「いじめをしない、許さない」を実践している。



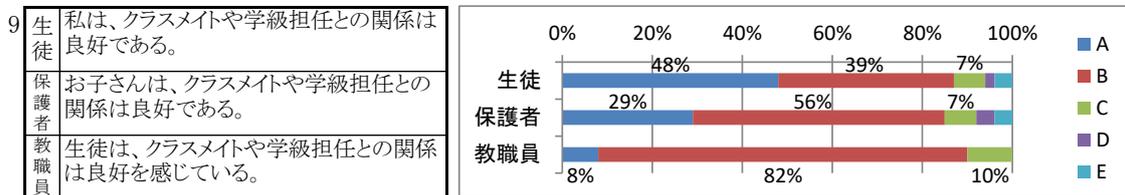
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → +2、保護者 → ±0、教職員 → +2  
 生徒も保護者も、「とてもそう思う」「そう思う」が95%以上であり、「いじめをしない、許さない」ことへの強い思いがうかがえる。しかし、教職員は「とてもそう思う」が0%、「あまりそう思わない」が13%と、課題として捉えていることもうかがえる。道徳科や学級活動における日常的な指導と併せて、いじめ防止強調週間等を利用して効果的な手立てを講じる必要がある。



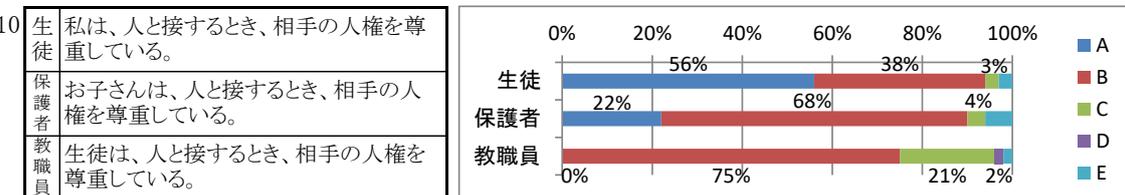
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → +1、保護者 → -3、教職員 → -5  
 学級担任だけでなく、学年内の教員がローテーションを組んで各学級で授業を行うなど、工夫ある実践をしている。生徒は、「とてもそう思う」が62%と自らの成長を実感していることがうかがえる。教職員は、肯定的回答が90%であるものの、「とてもそう思う」が15%である。学校として、教職員の授業力向上に組織的・計画的に取り組み、生徒の道徳性の涵養に努めたい。



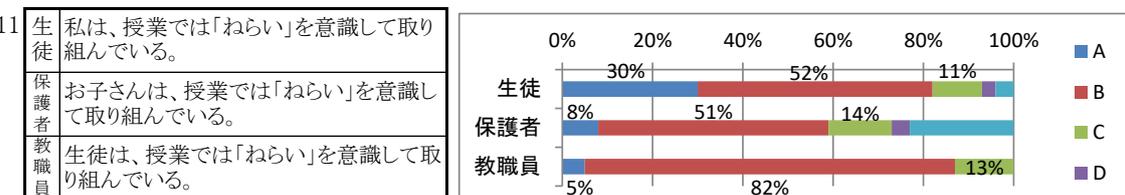
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -3、保護者 → -10、教職員 → ±0  
 「とてもそう思う」「そう思う」と回答した教職員は96%であり、生徒に寄り添ったり、情報を収集したりと指導に役立っていることがうかがえる。一方、生徒は82%、保護者は60%と差異が見られる。生徒が教職員に聞いてもらいたいことは何か、教職員に求めたいことは何かを感じ取ることが大切である。その上で生徒に適切に対応し、必要に応じて保護者と連携を図ることに努めたい。



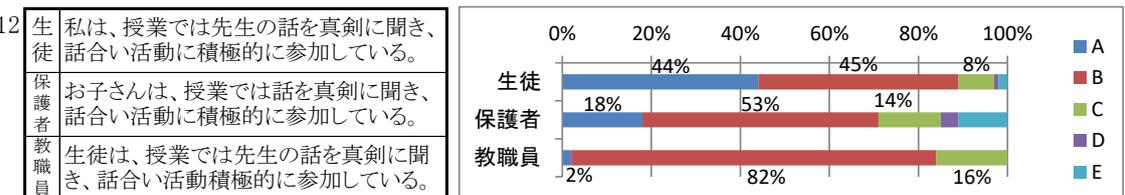
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -4、保護者 → -5、教職員 → -3  
 生徒、保護者、教職員ともに「とてもそう思う」「そう思う」との回答は85%以上である。一方、「とてもそう思う」と回答した生徒は48%、保護者は29%、教職員は8%と差異がある。教職員は課題を感じ、より良好な関係を求めることがうかがえる。一方、「あまり思わない」「全く思わない」との回答が少なからずある。具体的な手立てを講じ、生徒や保護者、教職員の信頼関係を深めたい。



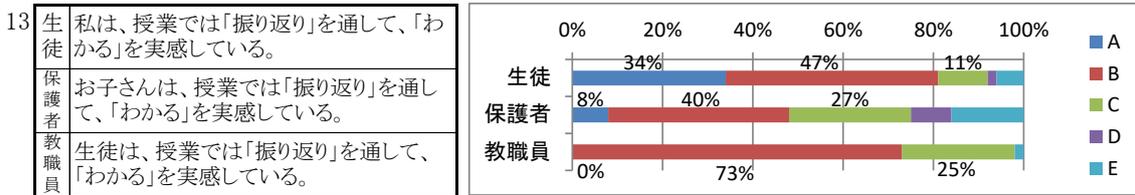
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -1、保護者 → -4、教職員 → -8  
 「とてもそう思う」の回答は生徒が56%、保護者が22%、教職員が0%と認識に差異が見られる。また、教職員の「あまり思わない」が21%であり、人権尊重を重視する意向がうかがえる。具体的な取組としては、小学校の教職員と連携した「大谷中学校区人権教育研修会」や、生徒の人権意識を高める「人権集会」等がある。年間を通して、人権教育の基底的指導の充実に努めたい。



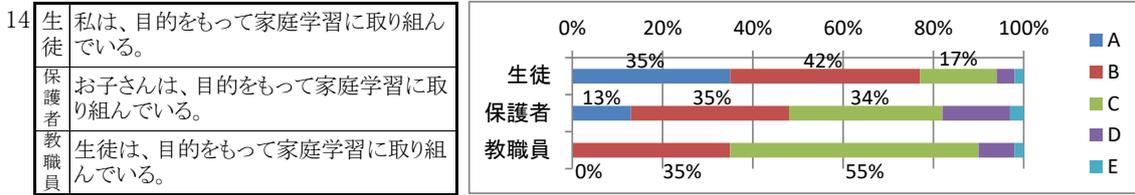
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -4、保護者 → -4、教職員 → -4  
 生徒も教職員も肯定的回答が80%以上であるものの、「とてもそう思う」の回答が生徒は30%、教職員は5%である。「ねらい」を提示しているが、「意識した取り組み」に至っているかは課題と思われる。また、保護者の「とてもそう思う」「そう思う」は59%であり、高い値とは言えない。生徒が日々の授業に充実感を得ること、学力が向上することが求められている。



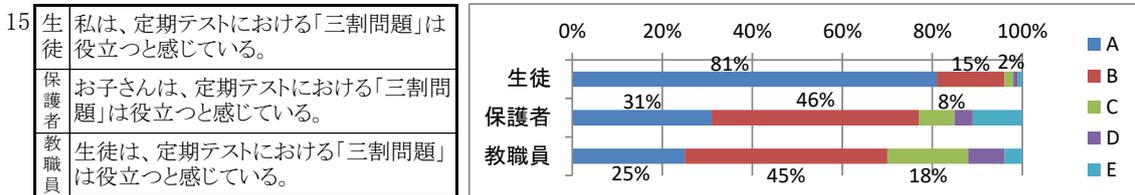
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → ±0、保護者 → -6、教職員 → +1  
 「とてもそう思う」と回答した教職員は2%であり、日々の話し合い活動に改善の余地を感じていることがうかがえる。新型コロナウイルスやインフルエンザの感染症対策をふまえ、ペア学習やグループ活動、タブレット及び電子黒板の活用等により、生徒同士で意見共有できるよう努めている。「主体的・対話的で深い学び」が実現するよう、今後も組織的対応を図りたい。



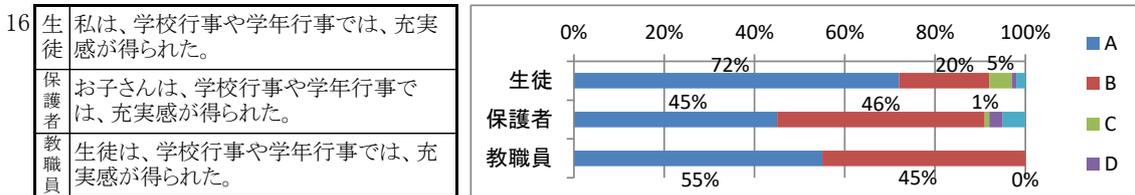
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -2、保護者 → -8、教職員 → ±0  
 「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒や教職員は約80%であり、高い数値とは言えない。保護者は48%であり、子どもの「わかる」との思いを願う気持ちがうかがえる。教職員の授業力向上や、生徒の学ぶ意欲、学力の向上が必要である。授業参観等で、これらを保護者に示すことで、学校への信頼を高めたり、家庭学習の協力体制も構築されたりすると思われる。



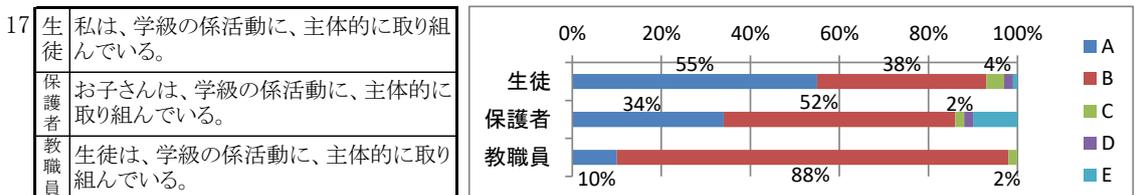
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -4、保護者 → -7、教職員 → -10  
 「とてもそう思う」「そう思う」の回答は、生徒77%、保護者48%、教職員35%であり、昨年よりも課題としての認識が高まっている。生徒は家庭学習に充実感を得ているものの、保護者や教職員は生徒のさらなる取組や成果を期待していることがうかがえる。生徒に効果的な家庭学習の方法を具体的に示したり、生徒の努力を称賛したりして、成果を可視化・共有化することが望まれる。



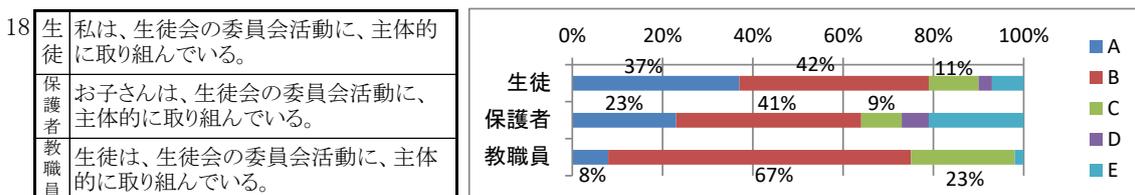
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → +3、保護者 → -3、教職員 → -3  
 「とてもそう思う」の回答は、生徒が81%であり、テストで効率よく得点する方法と捉えていることがうかがえる。教職員は25%であり、差異が見られる。三割問題の実施方法に課題はないか、実施は必要かを検証する必要性もあると思われる。定期テスト前の放課後学習会等もふまえ、生徒が「わかる」「できる」を実感できるよう、組織的・計画的に取り組みたい。



■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -2、保護者 → +1、教職員 → ±0  
 「とてもそう思う」「そう思う」に回答した教職員は100%である。目的達成に向けた事前準備、生き生きと活動する行事当日、個や集団の成長を実感する事後の学校生活が、教職員から見ていかに充実していたかがうかがえる。これらの様子を学校だよりや学年だより、大谷中学校ホームページ等で発信したことにより、保護者の理解や共感を得られたと思われる。

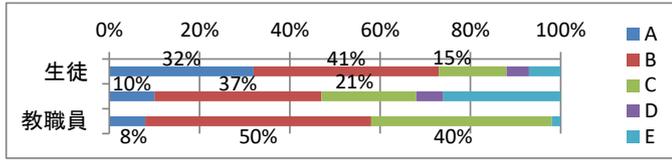


■肯定的回答の前年比 … 生徒 → ±0、保護者 → -3、教職員 → ±0  
 「とてもそう思う」「そう思う」の回答は、生徒も教職員も90%以上である。しかし、「とてもそう思う」に焦点を当てると、教職員は10%と高い数値とは言えない。教科連絡や生活班、給食当番など、生徒は与えられた役割を果たしているものの、教職員はさらなる積極性や創造性を求めていることがうかがえる。係活動の充実により、生徒が自己有用感を得ることを期待したい。



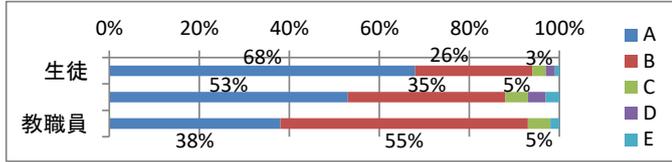
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -3、保護者 → -8、教職員 → -10  
 「とてもそう思う」「そう思う」の回答は、生徒も教職員も70~80%以上であり、「問17 学級の係活動」と比較すると低い数値である。生徒全員が委員会に属し、月1回の専門委員会で活動している。また、各委員会主催の生徒集也会も、年間を通して実施されている。活動内容がマンネリ化することなく、現状から課題を見いだしたり、生徒の意見を反映させたりすることが大切である。

19 生徒	私は、全校集会や生徒集会、学年集会は有意義と感じる。
保護者	お子さんは、全校集会や生徒集会、学年集会は有意義と感じている。
教職員	生徒は、全校集会や生徒集会、学年集会は有意義と感じている。



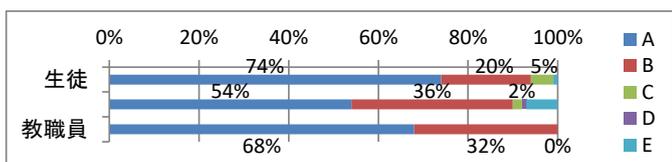
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → +3、保護者 → -11、教職員 → -3  
「とてもそう思う」「そう思う」の回答は、生徒は73%、教職員は58%であり、他の質問項目と比較すると高い数値とは言えない。新型コロナウイルス感染症対策により3年間の未実施期間があり、集会の企画・運営の実践に戸惑いがあると思われる。今までの通例にとらわれず、開催方法や活動内容の工夫に努めたい。その際、教職員の丁寧な指導の下、生徒の主体性を尊重したい。

20 生徒	私は、部活動(校外のクラブ活動等)に積極的に取り組んでいる。
保護者	お子さんは、部活動(校外のクラブ活動等)に積極的に取り組んでいる。
教職員	生徒は、部活動(校外のクラブ活動等)に積極的に取り組んでいる。



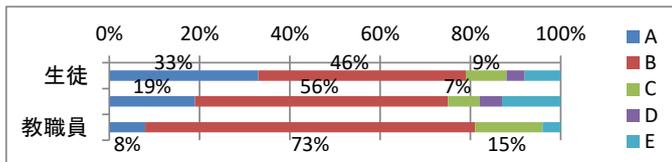
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → +1、保護者 → -2、教職員 → +8  
生徒や保護者の肯定的回答が約90%と高い値である。生徒が目的に向かって一生懸命に取り組み、保護者は生徒に寄り添い支援していることがうかがえる。教職員の「とてもそう思う」は38%であることから、部活動地域移行や働き方改革など現状を注視し、教職員のやりがいへとつなげたい。部活動により、豊かな人間関係を構築したり、たくましい心身を育成したりすることに努めたい。

21 生徒	私は、大谷中学校区の取組(みんなでキラキラあいさつ運動)を知っている。
保護者	お子さんは大谷中学校区の取組(みんなでキラキラあいさつ運動)を知っている。
教職員	生徒は、大谷中学校区の取組(みんなでキラキラあいさつ運動)を知っている。



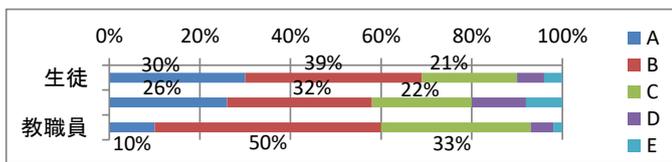
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → +1、保護者 → -2、教職員 → +2  
「とてもそう思う」「そう思う」の回答が生徒、保護者、教職員ともに90%以上である。小学生の頃に中学生の活動する姿に憧れを抱き、中学生になり小学生に夢や希望を与える好循環が定着していることがうかがえる。市が全面实施している小中一貫教育に基づき、大谷東や大谷南、東城南小学校と連携し、9年間を通した組織的、計画的な取組を充実させたい。

22 生徒	私は、大谷中学校区が好きである。
保護者	お子さんは、大谷中学校区が好きである。
教職員	生徒は、大谷中学校区が好きである。



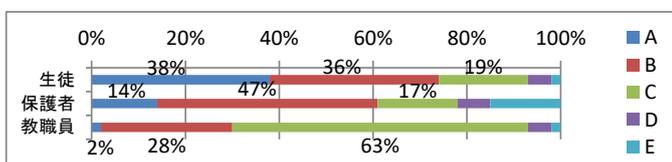
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -1、保護者 → -6、教職員 → -2  
「とてもそう思う」「そう思う」の回答が生徒、保護者、教職員ともに約80%である。小中一貫教育に基づき、小学校と中学校の教職員が連携し、一環した取組を継続することで、心の育成が図られている。また、それらを学校だよりや大谷中学校ホームページ等で発信することで、保護者の理解・共感を得ていると思われる。取組の成果や課題を検証し、質の向上にも努めたい。

23 生徒	私は、募金活動やペットボトルキャップ回収に、積極的に取り組んでいる。
保護者	お子さんは、募金やペットボトルキャップ回収に、積極的に取り組んでいる。
教職員	生徒は、募金活動やペットボトルキャップ回収に、積極的に取り組んでいる。



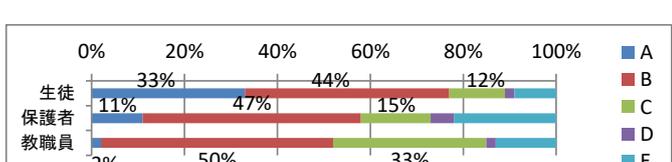
■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -8、保護者 → -14、教職員 → ±0  
「とてもそう思う」「そう思う」の回答が、保護者は58であり、高い数値とは言えず、改善の余地があると思われる。JRC委員が事前に呼びかけをしたり、事後に成果等を放送したりすることで、学校や家庭、地域につなげたい。今後も、募金活動やペットボトルキャップ回収の意義を丁寧に説明し、募金額や回収量だけでなく使い道を伝えることで、さらなる充実を図りたい。

24 生徒	私は、登下校時などに、地域の方に進んであいさつをしている。
保護者	お子さんは、登下校時などに、地域の方に進んであいさつをしている。
教職員	生徒は、登下校時などに、地域の方に進んであいさつをしている。



■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -5、保護者 → -1、教職員 → ±0  
「とてもそう思う」「そう思う」の回答が、生徒は74%、保護者は61%、教職員は30%と差異が見られる。生徒はあいさつに努めているものの、保護者や教職員はさらなる期待を抱いていることがうかがえる。一方、新聞やテレビ等では不審者による子どもへの被害が後を絶たない。学校としても制服の名札を外して登下校するよう指導している。地域の方とどう関わるか課題である。

25 生徒	私は、「学校」「保護者」「地域」が互いに協力し合っていると感じる。
保護者	お子さんは、「学校」「保護者」「地域」が互いに協力し合っていると感じる。
教職員	生徒は、「学校」「保護者」「地域」が互いに協力し合っていると感じる。



■肯定的回答の前年比 … 生徒 → -3、保護者 → -3、教職員 → +11  
「とてもそう思う」「そう思う」の回答が、生徒は77%である。生徒は、学校や保護者、地域に様々な視点からの支援を実感していることがうかがえる。一方、保護者や教職員は約60%未満であり、高い数値とは言えない。新型コロナウイルス感染症対策を経て、以前に比べ協力等の機会の減少が一因と思われる。学校として新たな方法を見いだし、保護者や地域との連携を図りたい。

